

「湘南・札幌サマーセッション その成果と反省」が開催されました

実施報告

日時: 2011年5月25日(水) 17:00 ~ 18:30

場所: 東海大学湘南キャンパス 8号館 408教室

司会: 山口 勉(チャレンジセンター教授)

内容: 1. 湘南・札幌サマーセッション
2. 成果と反省



1. 湘南・札幌サマーセッション

2009年と2010年の2回、地域創造学科の吉村卓也教授と共同で、札幌校舎を使って湘南、札幌の学生が統一テーマで取材し記事を作成する「プロジェクト入門」のセッション授業を行った。いわばジャーナリズム実践教育コースの「ジャーナリズム演習」を4日間で行うもので、両年とも初日に取材のやり方や文章の書き方、写真の撮り方を教え、2日目は札幌のマスコミ見学、3日は取材日とし、4日目に記事を作成して講評を行った。

2009年の統一テーマは「観光」で札幌の学生10人、湘南は12人が参加し、全員が違うテーマを選んだ。2日目は読売新聞札幌支社と札幌市役所観光課を見学した。また2010年は「北海道の未来」をテーマに札幌10人、湘南13人が参加、2日目は北海道新聞社を見学した。なお札幌参加者のうち5人、湘南4人が前年も参加したいわばリピーターだった。

山口 勉(チャレンジセンター教授)



2. 成果と反省

自分で統一テーマに沿った取材テーマを決め、電話などで取材先のアポをとり、実際に話を聞きにゆく、その際取材先の話を正確に聞き、メモを取る、さらに読者を納得させる文章力で記事を書いていく。企画から文章の作成まで学生にとっては極めてチャレンジングな4日間になり、両年とも最終日の講評会では優秀作品を発表し、さらに文集を作成した。たった1日の取材日で取材が満足に進まず、さらに講評の時間な足りなくなるなど、時間的なゆとりがなかったのが最大の反省点となった。

- Q 北海道に慣れていない湘南の学生に対して、どんな安全面の注意事項を与えたか？原稿を書く時間をどのくらい与えたのか？
- A レンタカーを利用しようとした学生に公共交通手段を利用するようにした。学生から教員へ頻繁に連絡をするようにした。こちらからも連絡を取った。原稿を書く時間として4～5時間かけたが、もう1日ほしかった。
- Q チャレンジセンターは教育改革のモデル化を目指している。今回の授業はモデル化の一つとして良いと思うが、このような観点で考えたとき、どのような点をさらに工夫すべきか？春休み開講はかどうか？
- A 札幌の参加者は担当教員のゼミ学生である。湘南は、私の入門系授業で参加を促したし、去年はゼミの学生である。参加者は突然飛び込んでこない。履修者を増やすのは大変である。去年はキャンパス間留学で2万円補助が出たが、突然キャンセルする学生もいて、教学と問題になった。運営は大変である。
- Q サマーセッションを他校舎と短期間に行う場合、事前準備はどのようにしたか？
- A 私が札幌に出向いて、挨拶回り、テーマ、宿泊施設の検討も行った。学生も事前に集めて話し合いを行った。
- Q 参加した学生の勉学に対するモチベーションは上がったか？
- A 取材を通して度胸が付いたと思う。取材して、文章にした達成感は得ているはずである。